

オオクチバス等に係る防除の指針見直しの方向性

■ 現状と課題

- オオクチバスやブルーギルは全国に広く分布しており、また近年ではコクチバスの分布が拡大している。
- オオクチバス、ブルーギル、コクチバスの防除が実施されている都道府県は、**それらが分布する都道府県のうち約6割、~~コクチバスは約4割~~**となっている。
- 新たな防除技術の研究開発や効果的な防除手法の検討が進み、各地で実施されている。**一部では生息量が大幅に減少するといった改善が見られるなどの成果も出ている。**
- オオクチバス等を含めて外来種に対する認識も広まり、外来種の防除に対する意識が大きく向上している。
- モニタリング（**現況調査**）は多くの都道府県で行われておらず、特に未定着地での侵入確認としての**モニタリング現況調査**はより少ない傾向にある。ただ、コクチバスについては近年の分布を拡大を受けて、未定着地でのモニタリングを実施している府県が多い。

→オオクチバス等の被害を低減し、コクチバスの分布拡大を防ぐため、**地域全体で防除の取組に対する理解と多様な主体の参画、防除技術やモニタリング手法に関する最新の知見を取り入れ、各主体の役割を明確化することにより、より実効性のある指針とすることで対策の推進を図る必要がある。**

■ 見直しの方向性とポイント

- オオクチバス等の分布の現状を踏まえ、**コクチバスに関する記述を増強**
- **最新の知見を踏まえ、防除やモニタリング追跡調査手法の記述を増強**（電気ショッカーボート、誘引、環境DNA等）。**巻末に参考資料も明記**
- **改正外来生物法を踏まえ、関係する各防除主体の役割を明確化**